

## 新たな政策課題にも積極的に対応していきます

### カスタマーハラスメント対策を知事に要請



流通小売業やサービス業の組合が多く集まるU.A.センセンと共に、近年社会問題化しているカスタマーハラスメント対策の条例制定を要請。知事からも「問題意識は同じ」と対応に意欲を示していただきました。

**条例制定対応協議へ**  
労組要請に「問題意識同じ」

顧客が理不尽な要求をする「カスタマーハラスメント(カハラ)」の防止につなげる条例の制定について、山本一太知事は31日、関係部署で協議を始めることを明らかにした。流通小売やサービス業などの労働組合でつくるU.A.センセンが同日、山本知事を訪れ、条例制定を要請。山本知事は同じ問題意識を持っている。

前向きな対応を早くできるか検討したい」と応じた。山本知事との会談で、U.A.センセン県支部の浦原清天支部長はカハラ防止に向けた条例制定と、制定の際に労働者代表が参加する検討会を設置すること、条例の実効性を確保するための指針を設けることを要請。

カスタハラ防止で知事

### ■ カスタマーハラスメントとは

顧客が企業や店舗に対して理不尽な要求・クレームを行うことを指します。

店員を怒鳴りつけ土下座を要求するケースや、商品を無料で提供するように執拗に要求するケースなどが社会問題化し、業界で働く方々の就業環境を守るためにも行政側の対応が求められ、自治体レベルでの条例制定の動きが広がりつつあります。

### 金属ヤード規制条例化目指し、特別委員会が始動

2024年(令和6年)6月13日(木曜日)

**ヤード規制へ実態調査**  
県全市町村、条例も視野

ヤードを巡っては、環境や景観、騒音・粉塵・水質汚染などの問題が指摘されている。県は、ヤードの規制を強化し、環境への悪影響を軽減することを目的として、県内各市町村に対して実態調査を実施している。調査結果に基づき、必要に応じて条例制定の検討を行うとしている。



金属ヤードは、古くから「スクラップ屋」等の呼び名で営業されてきた業態ですが、近年、外国人が営業する施設が増え、騒音・粉塵・水質汚染などの周辺環境の悪化を懸念する近隣住民の声が多く寄せられるようになっています。また、周囲を鉄板で囲まれていることから、自動車や太陽光発電のケーブルの盗難犯罪の温床となることも指摘されており、千葉県など規制強化の条例制定の動きが広がっています。

後藤が所属する「循環型社会構築に関する特別委員会」において、近県同様に規制を強化しなければ悪質な事業者が群馬県に集まってきてしまう等の懸念から、条例化を視野に議論を進めていくことになりました。

### ■ 金属ヤードとは

廃自動車などの廃金属製品を再資源化を目的に収集・保管する施設。廃棄物処理法の対象外。写真のように周囲を鉄板で囲まれている施設が多い。

# LIBERAL GUNMA 変革

後藤にとって政治の最大のテーマは、「失われた30年」をいかに克服するかにあります。国民の暮らしも教育も福祉も、国の経済を再生し豊かにしなければ充実は叶わないと考えるからです。

そのため、「過去の勝ちパターン」に固執する今の政策を根本から問い直し、「新たな成長モデル」を地方から創り上げるべく、後藤は奔走しています。新エネルギーやデジタル産業の最先端の現場に触れ、県議会で政策モデルを創りつつける先に、日本経済を変革する未来を信じて走り続けます。

再エネ事業に不可欠な蓄電池・パワーコンディショナーの世界的トップ企業、ファウウェイ社を訪問し、最先端の技術に触れる。



後藤かつみ  
県議会レポート

HP

<http://www.ccrgoto.com/>  
<http://www.eaglesgoto.com/>  
(スマートフォン用)



PC用 スマートフォン用

Facebook



発行 リベラル群馬 後藤かつみ事務所  
住所 高崎市八幡町 800-24  
TEL&FAX 027-343-1393  
e-mail ccrgoto@af.wakwak.com

# 地方議会にできて 国会でできないはずがない！



2010年2月14日 朝日新聞記事抜粋

2007年、若手議員8名で政務活動費を100%透明化する条例改正案を提案。  
3年に渡る党会派を越えた厳しい議論の末、透明化に踏み切りました。

県議の政務調査費領収書添付  
1円から義務化  
県議会 可決なら新年度実施  
県議の政務調査費領収書添付は、議員の経費の透明化を図るため、2007年に提案された。当初は、議員の経費の透明化を図るため、2007年に提案された。当初は、議員の経費の透明化を図るため、2007年に提案された。当初は、議員の経費の透明化を図るため、2007年に提案された。

裏金問題を機に、国会は大いに揺れました。いよいよ国会でも本格的な改革のメスが入ることを期待しましたが、結果は改革と呼べるには程遠い内容でした。パーティー券購入の公開基準を「10万円」から「5万円」に引き下げても、野田元総理の指摘したとおり「**小さなブラックボックス**」に変わるだけで、透明化は実現できません。

このまま改革がうやむやなままお茶を濁らせて終わるのかと思うと、**かつて党派を超えた厳しい議論の末、政治資金の「透明化」を実現してきた地方議員**としては、本当に歯がゆい思いです。国会も地方議会も仕事は同じ。透明化ができないはずがありません。

それどころか、この程度の改正ですら、麻生副総理が不満を露わにしたという報道で明かなように、国会議員に根付く「**特権があって当然**」という意識を払拭できない限り、真の改革は不可能です。

## カネのかからない**政治**は その気になれば**可能**

県議会代表者会議「冠婚葬祭虚礼廃止の申し合わせ」について

平成23年6月7日開催された代表者会議において、冠婚葬祭の虚礼廃止について次のとおり申し合わせがなされました。

- 群馬県議会は、平成2年6月14日の「虚礼廃止に関する決議」の趣旨を尊重し、虚礼を廃して公正で廉潔な議員活動を推進するため、弔電は白濁する。また、答礼として白筆で出す書中見舞い、年賀状以外は公職選挙法上禁止されていることを確認しました。

群馬県議会 HP より

政務活動費の透明化の翌年、弔電の白濁を議会全体で取り決めました。新聞のお悔やみ欄を見て弔電を送ることは長年の慣行でしたが、金銭的な負担も大きいことから、**政治資金の透明化を契機に「カネのかかる活動をみんなで止めよう」という機運**が生まれた事例と言えます。

「政治にはカネがかかる」という言説を良く聞きますが、**不透明に使える政治資金の元手を絶てば、否が応でも「カネのかからないルールをみんな作ろう」という機運**が生まれるのです。

# 裏金問題に見る国と地方の改革への温度差 カギは「透明化」と「特権意識の払拭」

## 副知事人事を巡り、 健全な二代表制が機能

経産省から交流人事で派遣されていた宇留賀副知事について、**経産省を退職させて副知事を続投させるという異例の措置**に踏み切ろうとしたことに端を発し、二代表制の意義が問われる議会となりました。

言わば「お気に入り」の続投のために、これまでの慣行ルールを否定する知事の姿勢に各会派が問題視し、舞台は緊急の全員協議会に（記事）。知事からは議会側の懸念を踏まえた妥協案が示され、歩み寄りにより決着の運びとなりました。

山本知事の行動力や発信力を県政に活かすハンドリングをしつつ、今人事のように県政の私物化や暴走に繋がりがかねない行為に至ったとき、ブレーキをかける使命を、議会が一定果たすことができたと考えます。

**副知事再任でも1年限り**  
全員協議会 知事、さらなる妥協案  
出身の経産省を正式に退職した宇留賀副知事。前副知事（43）の副知事再任案に関する協議会の全員協議会が12日開かれ、山本知事は、宇留賀氏を再任させても1年限りで退任させる意向を表明した。  
宇留賀氏を1年で退任させる、と県民やマスコミの対応をどうするか。再任案への対応については、できれば退任までに意見を集約したい。  
宇留賀氏の任期を1年で区切るの大きな変化。知事の意向と議会という二代表制の観点から、どう対応するか。初めは意見がぶつかった。会派を超えて広く対応を議論する。  
副知事のあるべき姿について、これまで知事と議会が考えてきた。初めは意見がぶつかった。会派を超えて広く対応を議論する。  
副知事のあるべき姿について、これまで知事と議会が考えてきた。初めは意見がぶつかった。会派を超えて広く対応を議論する。  
副知事のあるべき姿について、これまで知事と議会が考えてきた。初めは意見がぶつかった。会派を超えて広く対応を議論する。

〇月〇日上毛新聞記事抜粋



知事と覚書を交わす主要4会派

まつりごと せい  
“**政**とは**正**なり”  
みんしん な た  
“**民**信**細**くば**正**なり”

透明で正しく、国民から信頼されることが政治の要諦であるという原点に立ち返ることが今こそ求められています。



孔子